

【配付資料】

(資料1) 第1回検討会意見対応表

(資料2) (仮称) ちよだエコセンターの機能(環境拠点)

(資料3) ZEBモデル施設の機能

【議事要旨】

[開会]

第1回検討会での意見に対する対応案

◇事務局(仲澤企画調査係長)

資料1に基づき説明

◆崎田会長

- ・NO.2の「対象を誰にするのか」という意見の対応案に「環境に関する活動を行うすべての人」とあるが、これから関心を持って取り組む人も対象にする必要があるのではないか。

◇事務局(夏目環境政策課長)

- ・現在取り組んでいるだけでなく、これから環境に関心を持っていただく方も対象と考えている。

◆高口副会長

- ・「すべての人」というのは、住民のことを指すのか。働いている人などは対象にはならないか。

◇事務局(夏目環境政策課長)

- ・地球温暖化対策条例では、「区民」に、在勤・在学者も含めている。これは、エコセンターの利用対象者にも通じる理念であると考え。今後基本構想素案をまとめていく段階で、表現などを工夫したい。

議題(1) エコセンターの機能(環境拠点)について

◇事務局(仲澤企画調査係長)

資料2、参考資料1に基づき説明

◆村上委員

- ・学習工作室、貸工房、地域活動室の3部屋の違いを教えてください。

◇事務局(夏目環境政策課長)

- ・学習工作室は環境カレッジや講座などを行う学習部屋、貸工房は木材を使った工作ができるなど、道具が置いてある部屋、地域活動室はネットワークの拠点になるような部屋を想定している。
- ・現在は3部屋分けて書いているが、今後具体的な内容が決まってくると、実際は同じ部屋を使って運営していくこともあり得る。

◆高口副会長

- ・建築的な視点からいうと、学習工作室は音を出したり汚したりしてもいい部屋、貸工房は性能としては学習工作室と同じかもしれないが、1週間、1か月などの単位で借りられる部屋、地域活動室はウェット実験室（水などを使ってもいい部屋）というイメージだろうか。

◆崎田会長

- ・特定の目的がない状態で来訪し、展示を見たり、打合せをしたり、みんなが集えるような場がほしい。

◇事務局（夏目環境政策課長）

- ・展示情報室がそういう機能を果たす可能性はある。地域活動室も作りこみによっては、そういった機能を持たせることもできる。具体的な検討は構想策定後になるが、各部屋をどう配置するかなど、工夫できると思う。

◆高口副会長

- ・具体的な記述が多く、引きずられてしまう。こちらの資料は、規模感の参考という気がする。1,300~2,000㎡の3~4階建ての小さなビルというイメージだろう。

◆窪田委員

- ・「リサイクルショップ」という名称を「リユースショップ」に変えてもらいたい。
- ・現在のリサイクルセンターは、十分な広さがない。回収した家具をリペアして販売したり、撤去した放置自転車を修理して販売したりしているが、現在はスポーツセンターに修理スペースを確保できず、飯田橋で修理を行っている状況である。エコセンターに修理スペースを確保できれば、子どもたちの工作で使えたり、家具や自転車の修理に使えたりする。
- ・現在のリサイクルセンターは、出展する方が保管料を支払い、一定期間お店に商品を置き、売れ残ってしまった場合はお持ち帰りいただく仕組みになっている。しかし、持って行ったり取りに行ったりするのはやはり面倒である。
- ・そういったことが解消され、うまく機能すれば、集客につながるのではないか。

◆崎田会長

- ・貸工房とリサイクルショップ、ストックヤードを近くに配置し、集客のための入口の核にするということか。広さはどうか。

◆窪田委員

- ・この資料だと、ストックヤードは300㎡とあるが、これは各出張所のストックヤードを廃止して、エコセンターに集約するイメージなのか。
- ・ストックヤードは、現在各出張所に配置されていて近くにあるので、すぐ持って行けて便利である。区内に1か所あるよりも、各地域に分散している方が効率的なため、エコセンターには300㎡も必要ないのではないか。

◇オブザーバー（伊藤清掃事務所長）

- ・ストックヤードとは、ビン・カン等の資源を回収する拠点である。区民の方が直接ストックヤードに持ち込み、一定程度集まったら業者が回収する仕組みを取っている。通常の資源回収がうまく回っていれば、ストックヤードの必要性は低下する。

◇事務局（夏目環境政策課長）

- ・区内のストックヤードをエコセンター1か所に集約することは想定していない。広さに関するご意見については、受け止める。
- ◆高口副会長
 - ・展示について、VRやARを活用しても陳腐化はしてしまう。例えば、他団体から送付されてくるチラシなどを置くスペースを必要最小限設ける程度でよいのではないか。
- ◆森山委員
 - ・私も展示スペースはこんなに必要ないと思う。展示を見る方はあまりいないので、例えばカフェなどと合体させて、打合せしながら見られるようなスペースにするとよいのでは。
- ◆窪田委員
 - ・展示は壁に貼ればよいので、大きく空間を取る必要はないのでは。
- ◆崎田会長
 - ・新宿区のエコセンターと同様の施設は、場所としての展示スペースが狭く、たまたま立ち寄られた方に環境問題の基本を伝える部分が少ない。小学校の社会科見学にも継続的には来てもらえない。
 - ・参考資料にある北九州市環境ミュージアムは、公害の歴史からどうやって立て直してきたかなど、パネルで紹介されており、そのまちのストーリーをしっかりと発信するスペースが設けられている。
 - ・エコセンターの入口にも、千代田区の環境情報を展示し、来館された方に訴えかけるスペースがあった方がよいと思う。
- ◆高口副会長
 - ・最近、展示ではなく、映像を見ることが多いように思う。
 - ・社会科見学のスポットとして位置づけるのであれば、それなりのスペースが必要になる。
- ◆村上委員
 - ・パネルにするか映像にするかはわからないが、千代田区の取り組みを発信する展示、千代田区が環境をどう考えているかがわかる展示が必要だと思う。
- ◆深須委員
 - ・千代田区には日比谷図書文化館や様々な科学館等があり、展示をしているところは多い。
 - ・展示はあってもいいと思うが、どのようなことを発信するかはもう少し議論したほうがよい。
- ◆崎田会長
 - ・展示をしている施設はたくさんあるので、それらとのすみわけが大事になってくる。
- ◆高口副会長
 - ・前回の検討会でリピーターがこないダメという話があった。リピーターにとって展示はあまり魅力的ではないが、初めて来る人を呼び込むためには、展示が必要なかもしれない。
 - ・初めて来館される方向けのサービスとリピーター向けのサービスも、今後検討していけたらよい。
- ◆崎田会長
 - ・リピーターと初めての人両方とも大事で、どちらかに片寄るとうまくいかないで、よく考えた方がよい。

◆窪田委員

- ・今現在、千代田区や民間が活動している取り組みはどのようなものがあるか。

◇事務局（夏目環境政策課長）

- ・区は、この他に建物改修のための助成金の支給や生物多様性に関する観察会、環境に関する講演会等を行っているが、民間の取り組みは把握できていないものも多い。

◆崎田会長

- ・民間で活動していることを区も把握していただいて、取り込んでいけたらよいと思う。

◆深須委員

- ・千代田区には、きれいに整備された庭はあるが、寝っ転がったり、土に触れたりするところが少ない。そういった自然に触れ合える場所があると、都心の中で意外性もあり、お子さんたちも集えていいのではないか。

◆崎田会長

- ・屋上にそういった場所をつくるか、皇居や大きな公園の近くにエコセンターを建て連携するか、いろいろ考えられる。

◆窪田委員

- ・「土」というのはキーワードになるかもしれない。千代田区では土に触る機会がない。
- ・屋上菜園は見かけるようになってきたし、養蜂はCESが行っている。

◆高口副会長

- ・授乳室等の子ども向けの設備も必要なのでは。

◆崎田会長

- ・食べ物を食べられて、ちょっと休憩できて話すことができるスペースはすごく大事だと思う。
- ・都内の環境関連施設によくあるのが、障害の方々を作ったパンを販売する施設である。海外の方が祖国のスイーツを日替わりで出してくれるなども面白い。

◆窪田委員

- ・千代田区には大使館がたくさんあるので、取り込むことができれば、千代田区らしさが出るかもしれない。

◆村上委員

- ・内容が盛りだくさんで、全部入れようとすると、全部寸足らずになってしまい、個性がなくなる気がする。
- ・どこかに重点を置き、メリハリをつけた方がよいのでは。
- ・建てる場所によって機能連携も変わってくると思うので、場所を含めて検討を行いたい。

◆崎田会長

- ・「今月は“大学生”」など、貸会議室を使って、月替わりでテーマを決めるのも面白いかもしれない。
- ・いろんな風に使えそうな場にしておくというのは大事かもしれない。

議題（２）ZEBモデル施設の機能について

◇事務局（仲澤企画調査係長）

資料3、参考資料2～7に基づき説明

◆高口副会長

資料4に基づきZEBについて説明

◆崎田会長

- ・都心にある大規模ビルは、建てる時にそれなりに取り組みを行っているが、中小規模ビルはまだ取り組みが遅れているのが現状である。ここへのPRが大切になってくる。
- ・どのレベルのZEBを目指すかについては、2050年までにCO2削減目標80%という時代であり、今世紀末にはプラスマイナスゼロということが世界的に求められている中で、できればNearly ZEBではなくZEBを目指した方がいいのかなと感じている。
- ・エコセンターの意義として、「使い手の行動変容」というのも入れた方がよいのでは。

◆森山委員

- ・新築、改修にあたっての省エネ化の一番のポイントは、費用がどれくらいかかるのかということ。多額の費用がかかるんだったら、やらなくていいですとなってしまふ。補助金に期待してしまうところもある。
- ・千代田区は中小ビルが多く、そこに対するモデルが必要である。
- ・新築だけではなく、改築のモデルもあるとよりよい。

◆崎田会長

- ・工事費用はかかるが、ランニングコストは下がるはず。何年で回収できるか。

◆高口副会長

- ・正確な数字は覚えていないが、建築コスト増加分は家賃を上げて回収することになるだろう。

◆村上委員

- ・大丸有地区ではZEBはない。ZEB Readyへの取り組みで言えば、大手門タワー・JXビルがある。
- ・今後計画しているビルでもZEBは難しい。それぐらいZEBに取り組むことは難しい。
- ・改修でも、フルZEBは実現できるのか？

◆高口副会長

- ・完全にスケルトンにしてやり直せばできなくもない。ただ、そこまでやるかということ。
- ・環境省は、現在、改修のZEBを検討しているところである。

◆村上委員

- ・やはりフルZEBですよ、というのは非常に宣伝効果があると思うが、千代田区で取り組むとなると、中小ビル向けのモデルになるので、必ずしもフルZEBではないということも考えなくてはいけない。
- ・最先端のものをつくってみんなに見てもらい、自分たちもやってみようかなと思ってもらうのもいいかもしれないが。

◆崎田会長

- ・千代田区には活用できる再生可能エネルギーはあるか。

◇事務局（夏目環境政策課長）

- ・区有施設には地中熱を活用している施設があり、場所によっては未利用エネルギーを活用できる可能性はある。
- ・先ほど話が出ていた ZEB のレベルに関しては、昨年度区が調査したところ、千代田区の地域特性では ZEB Ready が現実的ではないかということだった。ただし、ZEB Ready 以上を目指す場合には、上を目指していく。
- ・モデル施設であるため、最先端の技術を見てもらうことも大切だと思うが、民間事業者がマネできるということも非常に重要だと考えている。
- ・改築による ZEB モデル施設も示せるとよいが、先ほど、かなり大規模な改修が必要であり、オーナーが「そこまでやるか」という話もあった。エコセンターを新築で建てた場合でも、ZEB モデル施設のソフト機能として、改修の ZEB に関するメニューを提示していくことはできる。
- ・建物をどう建てるかということも大事だが、その中で何を行っていくかということも大事だと考えている。

◆村上委員

- ・CES の施設見学会で、一番町にある笹田ビルの見学に行った。ここは、改修で地中熱を活用し、▲49%を達成していた。
- ・地中熱とは、夏に地中に熱を溜めて、冬にその熱を使用するようだが、割と使える。

◆高口副会長

- ・冷房を使用すると、部屋の中は冷えるが、外が暑くなる。地中熱の利用は有効である。

◆崎田会長

- ・小田原にある▲65%を達成した中小ビルでは、太陽光を反射させてオフィスまで取り込むというような、自然エネルギーを活用したちょっとした工夫がされており、大変興味深かった。
- ・入口に、ZEB に関する展示を行うことも、千代田区らしさが出るのではないかと。

◆高口副会長

- ・ホールのような機能はなくてもいいのか。
- ・ZEB モデル施設の機能メニューに、環境性能の高いビルの経営の視点から「成約賃料」を入れてほしい。家賃が上がらなければ基本的に改修はできない。どれだけ家賃が上げられるかが問題となる。

◆崎田会長

- ・2020 年の東京オリンピック・パラリンピックでは、水素エネルギーを活用するモデルケースとなることを重視している。
- ・エコセンターもそのような取り組みが必要なのではないかと。

[閉会]